

学年	1年	2年	3年	4年	卒業要件 (44単位)			
系 科目群	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)				
ゼミ	★基礎ゼミ(2)				—			
	教養テーマゼミ(通年4)							
	コンピュータ	コンピュータ処理論A(2)		コンピュータ処理論B(2)	2単位			
	スポーツ・健康	個人スポーツ A(1) フィットネス A(1) 障害者スポーツ A(1)	個人スポーツ B(1) フィットネス B(1) 障害者スポーツ B(1)	チームスポーツ A(1) シーズンスポーツ A(1) 健康管理実習(1)		チームスポーツ B(1) シーズンスポーツ B(1)		
	英語	総合英語リーディング(通年2) 総合英語コミュニケーション(通年2) 基礎英語リーディング(通年2) 基礎英語コミュニケーション(通年2)			4単位			
		第二外国語	ドイツ語基礎 A(通年2) ドイツ語基礎 B(通年2) フランス語基礎 A(通年2) フランス語基礎 B(通年2) 中国語基礎 A(通年2) 中国語基礎 B(通年2) ロシア語基礎 A(通年2) ロシア語基礎 B(通年2)			4単位		
	英語		英語コミュニケーション A(2) メディア英語 A(2) サイエンス英語 A(2) 文化と英語 A(2) 英語資格対策 A(2) 英語セミナー A(2)		英語コミュニケーション B(2) メディア英語 B(2) サイエンス英語 B(2) 文化と英語 B(2) 英語資格対策 B(2) 英語セミナー B(2)	—		
		第二外国語	ドイツ語演習 I(2) ドイツ語応用 I(2) フランス語演習 I(2) フランス語応用 I(2) 中国語演習 I(2) 中国語応用 I(2) ロシア語演習 I(2) ロシア語応用 I(2)		ドイツ語演習 II(2) ドイツ語応用 II(2) フランス語演習 II(2) フランス語応用 II(2) 中国語演習 II(2) 中国語応用 II(2) ロシア語演習 II(2) ロシア語応用 II(2)			
	自然の探		数学 A(2) 化学 A(2)	数学 B(2) 化学 B(2)	統計学 A(2) 地学 A(2)	統計学 B(2) 地学 B(2)	物理学 A(2) 生物学 A(2)	物理学 B(2) 生物学 B(2)
	人間の探	哲学 A(2) 日本史 A(2) 文学 A(2)	哲学 B(2) 日本史 B(2) 文学 B(2)	倫理学 A(2) 東洋史 A(2) 言語学 A(2)	倫理学 B(2) 東洋史 B(2) 言語学 B(2)	心理学 A(2) 西洋史 A(2)	心理学 B(2) 西洋史 B(2)	4単位
社会の探	日本国憲法(2) 経済学 A(2)	法学(2) 経済学 B(2)	政治学 A(2) 地理学 A(2)	政治学 B(2) 地理学 B(2)	社会学 A(2) 教育学 A(2)	社会学 B(2) 教育学 B(2)	4単位	
新領域	女性学 A(2) 情報科学 A(2)	女性学 B(2) 情報科学 B(2)	健康科学 A(2) 平和論 A(2)	健康科学 B(2) 平和論 B(2)	環境科学 A(2)	環境科学 B(2)	2単位	
	異文化研究(2)				—			
テーマ	教養テーマ講義 A(2) 教養テーマ講義 C(2)		教養テーマ講義 B(2) 教養テーマ講義 D(2)	—				
海外教養科目(4)								

全学共通科目の
いずれかから20単位
選択(外国語基礎の
英語を除く)

★「基礎ゼミ」は履修できません。

大学においては専門的知識を身に付けるだけでなく、幅広く深い教養と総合的な判断力を培うためのカリキュラムが用意されています。全学共通科目には多様な科目が置かれていますので、『シラバス～授業計画～』を参考にして科目を選択し、総合的な知識を身に付けるとともに、論理的思考力とコミュニケーション能力を磨いて下さい。

ある程度まとまったテーマについて学んでみたいという人のためには、別冊の『教養テーマ履修モデルと教員紹介』に、各種テーマ履修モデルが示されていますので参考して下さい。

(1) 不開講科目 履修者数制限

履修希望者が極端に少ない場合、科目によっては、各学期始めに授業担当教員と履修者との合意のうえで、その学期の授業を不開講とすることがあります。

また、履修希望者が多すぎて授業に支障をきたす場合は、履修者数の制限を行うこともあります。初回の授業には必ず出席し、授業担当教員の説明をよく聞いて下さい。

(2) 教養テーマゼミ

履修希望者は、初回の授業に必ず出席して下さい。

(3) スポーツ・健康

下表のスポーツ科目「A・B」(各1単位)および「健康管理実習」(各学期開講1単位)の中から卒業所要単位として2単位を修得して下さい。各学期とも1科目名(1単位)しか登録できません。各スポーツ科目すべての種目が開講されるとは限りません。

科目名		登録上の注意
科目	種目	
個人スポーツA・B	卓球・硬式テニス・ バドミントン・ゴルフ	このうち1種目 (科目ごとに種目 を選んで下さい。 A・Bが別であれば 種目は同一でも 異なっても構 いません。) 全ての中から 学期ごとに1科 目名を登録し て下さい。 (卒業所要単位 として2単位必 要です。)
チームスポーツA・B	バレーボール・バスケットボール・ ソフトボール・サッカー	
フィットネスA・B	トレーニング・フィットネス	
シーズンスポーツA・B	ダイビング・スキー	
障害者スポーツA・B		
健康管理実習 (春学期・秋学期それぞれで開講される半期開講科目です。)		春秋どちらかで 受講して下さい

《履修上の注意》

- ①各スポーツ科目及び健康管理実習は履修者数制限を行います。
- ②同一スポーツ科目で異なる種目は履修できません。種目名は科目名ではありません。
- ③スポーツ科目(A・Bの別)が異なる場合は履修可能です。
- ④障害者スポーツA・Bは、身体的な事情によって長期にわたり他のスポーツ種目の履修が困難と考えられる学生を対象とします。医療機関が発行する診断書が必要です。授業担当教員と日常生活活動能力の面談を通して実施可能な運動について判断し授業を展開します。(必ず授業担当教員に履修許可を得てから教務課で履修登録して下さい。)
- ⑤健康管理実習は、キャンパスライフから生涯の健康維持・増進を主たる目標におき、個人カルテおよび運動処方箋の作成を試みる授業です。(春・秋の各学期で開講される科目のため、どちらかの学期で履修して下さい。春・秋の両学期で履修することはできません。同一科目です。)

《履修方法》

春学期のクラス編成は履修ガイダンスで案内します。

※復学者・編転入者の履修については、教務課窓口へ申し出て下さい。

**(4) 総合英語
基礎英語**

「総合英語」と「基礎英語」は、それぞれ「リーディング」と「コミュニケーション」(各2単位)のセットで合計4単位履修しなければなりません。但し、1年生で「基礎英語」の単位を修得した場合、2年生以降に「総合英語」を履修することはできませんが、卒業要件には4単位までしか算入できません。

「総合英語」は大学生に相応しい英語力をめざすのに対し、「基礎英語」は必要に応じて英語の初歩に立ち戻って学習します。また、「基礎英語」を選択した場合には、学力の不足を補完するため、しばしば多くの自宅自習・課外学習が課せられます。

《履修方法》

クラス編成は履修ガイダンスで案内します。

※復学者・編転入学者の履修については、教務課窓口へ申し出て下さい。

《再履修について》

①未修得の科目にかかわらず「総合英語」または「基礎英語」のどちらかで再履修しなければなりません。1年生で開講されている「リーディング」または「コミュニケーション」で再履修して下さい。

②「再履修登録」が必要です。履修方法と受付日程はALBOで案内しますので指示に従って「再履修登録」を行って下さい。

※「再履修登録」は先着順で行い、各クラス定員になり次第締め切ります。

(5) 第二外国語

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語が開講されています。

《各外国語基礎A・B》

1年生は全員、各外国語基礎A・Bを履修登録しなければなりません。クラス編成はCUBICSで案内します。

新1年生ガイダンス期間中に各外国語担当教員による相談会を実施します。

※復学者・編転入学者の履修については、教務課窓口へ申し出て下さい。

《各外国語基礎A・Bの再履修について》

①再履修は、1年生に履修した外国語と同一の外国語でなければなりません。やむを得ない理由で1年生と異なる外国語の履修を希望する場合には、2年生履修登録日までに教務課窓口へ申し出て下さい。変更理由やクラス定員の問題により変更が認められない場合もあります。

②「再履修登録」が必要です。履修方法と受付日程はALBOで案内しますので指示に従って「再履修登録」を行って下さい。

③再履修は、原則として自分の所属する学部で履修して下さい。但し、時間割の都合で不可能な場合は、他学部で履修することもできます。

※「再履修登録」は先着順で行い、各クラス定員になり次第締め切ります。

《各外国語演習I・IIおよび応用I・II》

各外国語演習I・IIおよび応用I・IIを履修する場合は、それに対応した各外国語基礎A・Bを両方修得済みか、履修登録をしていなければなりません。履修希望者は必ず初回の授業に出席して下さい。

(6) 第三外国語

1年生で履修した英語と第二外国語以外に、2年生以降に第二外国語の中で自分が修得した外国語以外の外国語の中から3つ目の外国語を修得して全学共通科目の卒業所要単位に算入することができます。

《第三外国語としての各外国語基礎A・B》

第三外国語として希望する各外国語基礎A・Bを履修する場合は、第二外国語で履修した各外国語基礎A・Bの両方を修得済みでなければなりません。

第三外国語の場合は、各外国語基礎A・Bいずれか一方でも履修できます。

《第三外国語としての各外国語演習I・IIおよび応用I・II》

第三外国語として希望する各外国語演習I・IIおよび応用I・IIを履修する場合には、それに対応した第三外国語の各外国語基礎AまたはBを修得済みか履修登録していなければなりません。

《履修方法》

第三外国語の履修希望者は、CUBICS履修登録修正期間までに教務課窓口へ申し出て下さい。

※第三外国語を履修する場合は授業担当教員の許可が必要です。許可を得ずに履修登録した場合は、単位が認定されません。また希望するクラスの履修者数が多い場合には、履修できないことがあります。

**(7) 自然の探究
人間の探究
社会の探究
新領域**

「○○学A」と「○○学B」は独立した科目ですが、「○○学B」を履修する前に「○○学A」を履修しておくことが望ましい場合もあります。各科目の「シラバス～授業計画～」を参照して下さい。

(8) 海外教養科目

- ① ISEP 加盟大学、および中京大学海外交流協定大学へ交換留学生として選抜派遣された学生が留学先大学で修得した単位については、原則として全学共通科目にある科目に読み替えてこれを認定します。(成績表上には「N」として表記されます)
- ② 上記読み替えがきかない科目の中で、国際教養学部が認めた科目については、全学共通科目の「海外教養科目」として認定します。
- ③ 「海外教養科目」として認定できる単位数は4単位までとし、1または3単位などの分割認定も認めます。

(9) 再試験

再試験については下記の通りです。

《対象科目》 全科目

※ただしゼミ科目群の科目、外国語基礎科目群の科目、スポーツ・健康科目群の科目、海外教養科目、司書科目を除く。また科目により実施しないことがあります。

《対象学年》 4年生

《再試験受験制限単位》 (全学共通科目・資格科目共通)

- ① 再試験については、春学期・秋学期あわせて12単位を越えて申し込みおよび受験することはできません。
- ② 再試験の受験・不受験に関わらず、申し込みをした時点で制限単位(12単位)に含まれます。